

英語科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 塚本 麻衣子

1 対象・日時 2年C組 令和4年2月18日(金) 2校時

2 本単元で育成したい資質・能力(評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ①比較表現や現在完了形, 相手の発言に賛成したり反対したりする表現の意味や働きを理解している。 <技能> ②日本文化について, 比較表現や現在完了形, 相手の発言に賛成したり反対したりする表現などを用いて自分の意見を伝えたり相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	①相手が納得できる提案をするために, 日本文化について, 比較した情報や自身の経験を整理し, 簡単な語句や文を用いて自分の意見を伝えたり, 相手の意見に対する自分の考えを述べたりしている。	①相手が納得できる提案をするために, 日本文化について, 比較した情報や自身の経験を整理し, 簡単な語句や文を用いて自分の意見を伝えたり, 相手の意見に対する自分の考えを述べたりしようとしている。

3 単元「相手意識をもちながら, 説得力のある意見を伝え合おう。」について

本単元では「話すこと [やり取り]」の活動に焦点を当て, 学習指導要領の「イ 日常的な話題について, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」ことを目指す。授業者である教員の元に, アメリカの中学校の先生から「文化祭のクラス企画として行う『日本の紹介』の内容について, 日本の中学生の考えを知りたい」という連絡があったという設定で, アメリカの中学校の先生に提案する内容についてペアで意見交換を行う。単元の導入では, 複数の動画や資料を見て, それらを比べ, 説得力がある主張にはどのような要素が必要であるかを考えさせたい。この活動を通して, 相手を納得させるためには, 情報を比較することや自身の経験を述べることなどが必要となる。また, 実際にペアでやり取りする際に, 情報を比較することや経験談を述べることができるように, 表を活用し, 自身の意見を整理できるように促す。「日本の紹介」を行う目的や, アメリカの中学生を対象に「日本の紹介」が行われるという場面・状況に合わせて, 既習事項から適した表現を組み合わせ, 意見を述べられるよう指導する。さらに, 相手意識をもった伝え方について学習する。教科書本文のやり取りに一部空欄が設定されたワークシートを用意し, 相手の意見に対する賛否の述べ方について, どのような表現が適当であるかを考えさせる。その後, 学習課題では相手の発言の意味や意図を確認しながら, 相手意識をもって自分の意見を言うことに挑戦させたい。

4 生徒の学びの履歴

今年度行った「話すこと」の活動は, Small Talk, ストーリーリテリング, 将来の夢についてのスピーチ, 最適な誕生日ケーキを選ぶ活動, 修学旅行先の提案のプレゼンテーションである。[発表]の活動においては, 原稿を基に, 学習した知識・技能を活用しながら, わかりやすく話を展開することができていた。しかし, [やり取り]の活動においては, 自分の意見を主張する際にも, 根拠が不十分である意見が多く, 「説得力の少なさ」が課題であった。また, 最適な誕生日ケーキを選ぶ活動においては, 互いに自分が良いと思うケーキを主張するところで会話が終了してしまい, 合意形成に至らないケースも見られ, 「相手意識をもって話すこと」も課題であった。本単元では, やり取りする場面を複数回設定し, 相手の意見に対して考えを述べた上で, 目的・場面・状況に応じて, 既習事項から適した表現を選択し, 情報を比較したり, 自分の経験談をもとに主張したりするなど, 説得力のある伝え方について考えを深められるような授業を展開していきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（9時間扱い）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1	知① 比較表現や現在完了形，相手の発言に賛成したり反対したりする表現の意味や働きを理解している。(○)	【発言の点検】 【ワークシートの記述の点検】 C：教科書のやり取りの内容から，相手の意見に対してどのような反応をしているかを確認させる。
2	2 7	<p>技① 日本文化について，比較表現や現在完了形，相手の発言に賛成したり反対したりする表現などを用いて意見を伝えたり相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。(○○)</p> <p>思① 相手が納得できる提案をするために，日本文化について，比較した情報や自身の経験を整理し，簡単な語句や文を用いて自分の意見を伝えたり，相手の意見に対する自分の考えを述べたりしている。(○○)</p> <p>態① 相手が納得できる提案をするために，日本文化について，比較した情報や自身の経験を整理し，簡単な語句や文を用いて自分の意見を伝えたり，相手の意見に対する自分の考えを述べたりしようとしている。(○○)</p>	<p>【発言の点検】 【パフォーマンステストの確認・分析】 C：過去の授業で使用した比較表現や現在完了形のワークシートを振り返るように促す。</p> <p>【発言の点検】 【パフォーマンステストの確認・分析】 C：話の流れをイメージさせ，まとまりを意識して，表現をメモするように伝える。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 【パフォーマンステストの確認・分析】 C：これまでにClass Notebookに記録した表現を振り返り，役立つ表現を探し，使ってみるよう助言する。</p>
3	8 9	態① 自分の意見が根拠に基づいたものであるかを分析し，実際の場面でどのように使用できるか考えようとしている。(○)	【振り返りの記述の確認】 C：やり取りの動画や振り返りを見直し，何ができるようになったかを見つけさせる。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 教科書Take Action! Talk 6の内容を用いたやり取りが示されたワークシートの空欄部の台詞を考え、その後、賛成したり反対したりする表現を確認する。 上の表現を活用して、簡易なお題でやり取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りでは、主張内容よりも賛成したり反対したりする表現を意識して使用できているかを重視する。 	1
<ul style="list-style-type: none"> 学習プランを活用し、本単元の見通しをもつ。 日本に関する資料を読んだり関連動画を見たりする。 <div data-bbox="140 573 815 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題①】 おすすめの観光名所をランドマークタワー・東京タワー・スカイツリーから1つ選び、提案しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、ペアでやり取りを行う。 企画提案をしている動画を視聴し、説得力のある提案にはどのような要素が含まれているかを考える。 ペアを変更し、2回目のやり取りを行う。 学習課題②に向けてメモを作成する。 <div data-bbox="140 976 815 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題②】 日本のスポーツである柔道・相撲・空手から1つ選び、提案しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> メモを基にやり取りを行う。 録画したやり取りを見返し、文章として書き起こし、チェックシートで会話内容を確認する。 評価規準を基に1回目のやり取りを自己評価し、その後、ペアを変更し、再度やり取りを行う。 学習課題③に向けてメモを作成する。 <div data-bbox="140 1379 815 1518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題③】 日本食について、たこやき・オムライス・和風ハンバーグから1つ選び、提案しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> メモを基にやり取りを行う。 学習課題①②のやり取りの良い例を見て、やり取りにおいてどのような点が重要であるかを考える。 ペアを変更し、2回目のやり取りを行う。 <div data-bbox="140 1697 815 1836" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題④】 パフォーマンステスト 世界に伝えたい日本語について、もったいない・おもてなし・頂きますから1つ選び、提案しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> メモを作成し、やり取りを2回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プランを用いてゴールを明確にする。 やり取りで使用できる表現を増やすことを目的に、簡易な語彙・表現を用いて資料を作成する。 やり取りは録画してClass Notebookに貼り付け、その隣に「振り返り」を書くように指示し、生徒が自身の変容を確認できるようにする。 明確な根拠をもって話すことができるように「選択肢の比較」「自分の経験談」などの情報を整理できる表を用意する。原稿を読むのではなく、メモを基に話を再現できるように、メモには文章ではなく、単語のみを書かせるようにする。 チェックシートは、自分の意見を裏付ける根拠を示せているかを確認できるものとする。 1回目のやり取りの自己評価の際、2回目に備えて必要であると考えられる表現を調べさせ、メモに追記させる。 生徒のやり取りから良い例を複数示し、主張に明確な根拠があることや、相手意識をもって話すことが重要であることに気付かせる。 これまでの「振り返り」の内容を確認させ、テストに生かせるようにする。 2回行ったやり取りの中で、良かった方を課題として提出させる。 	2 7
<ul style="list-style-type: none"> 学習課題①～④の内容について班内でディスカッションを行い、全体の意見を決定する。 本単元を通して身に付いたことを、振り返りシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの班の意見をFormsに投票させ、意見を集約する。全体共有後、個別に再投票させ、クラスの意見を決定する。 今後、どのような場面で身に付いたことを使用できるか考えさせる。 	8 9

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

目的・場面・状況に応じて、情報を比較したり、自らの経験と結びつけたりして、説得力のある意見を伝えようとする姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

初めに教科書のやり取りが示されたワークシートの空欄部（相手の意見に対する反応）に当てはまる表現を既習表現から考えさせ、教科書の表現から空欄部に当てはまる適当なものを確認する。その後、学習課題①～④で使用できる表現を増やすために、パターン・プラクティスとして新しく学習した表現を用いて簡単なやり取りを行う。やり取りで使用する既習事項の比較表現・現在完了形は、学習課題②で行われるやり取りの内容を文章として書き起こした際に、使い方を全体で確認する。学習課題③では、教師からのフィードバックとして多く見られる間違いについて提示し、注意喚起する。学習課題④のパフォーマンステストのやり取りで、適当な場面において比較表現や現在完了形、相手の発言に賛成したり反対したりする表現が正確に使用できているかを評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

学習課題①では視点をしばってそれぞれの選択肢を比較したり、自分の経験を述べたりした主張とそれらが含まれていない主張を比べさせ、説得力のある主張に必要な要素について考えさせる。その後、学習課題②ではやり取りの内容を文章として書き起こす際に、チェック表を使用しながら「情報の比較」や「自分の経験談」が含まれているかを確認する。学習課題③では、これまでに学習したことを踏まえた上で1回目のやり取りを行う。その後、学習課題①②で良いやり取りを行っているペアの動画を視聴し、「相手意識をもったやり取りとはどのようなものか」「説得力のある主張にはどのような要素が含まれているか」を確認する。自身のメモを修正し、更に2回目のやり取りに取り組みさせる。学習課題④のパフォーマンステストのやり取りで、自身の主張が相手の意見を踏まえたものであるか、また、その主張が情報を比較したり自分の経験を述べたりなど、根拠に基づいたものであるかを評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

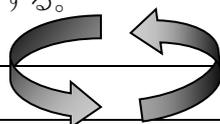
学習プランで示している評価規準と照らし合わせた自己評価、教師からのフィードバックなど、様々なチェックの場を設けることで、自身の学びを振り返り、修正できるようにする。また、各学習課題の1回目と2回目のやり取りの間に振り返りの時間を設け、対話内容を改善するためにはどのような表現や意見の主張の仕方が必要であるかを考えさせることで自身の学習の調整につなげる。

○生徒自身が「学習と成果」を実感できるプロセス

毎回のやり取りの記録を動画としてClass Notebookに蓄積することで、どのように改善・調整したかを随時確認できる。課題ごとに「使用した表現」をClass Notebookに記録することで、使用できる表現が増え、表現の幅が広がり、実感を伴って資質・能力の高まりを感じることができる。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。



【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

与えられた情報・題材を**比較**し、それらを自身の知識や経験と**関連付ける**ことが、問題解決に至るまでの整理・分析力の育成につながる。